

## 令和7年度 職員アンケートの結果概要

## ■調査概要

調査対象	松田町役場職員
調査時期	令和7年12月8日から令和8年3月10日
調査方法	Web 回答
対象者	107名
回答者	107名
回答率	100%

- 【調査項目】 ①各施策分野における「満足度」、まちづくり戦略プロジェクトの評価  
 ②松田町第6次総合計画の利用状況

【集計分析】 本調査では、設問ごとの単純集計を行っている。

## ■特徴1 各施策分野の「満足度」、まちづくり戦略プロジェクトの評価

## (1) 施策別の満足度

分野別の満足度平均ポイントでは、「経済・産業」の2.32ポイントで最も高く、次いで「健康・福祉」が2.17ポイントとなっている。一方で、最も低いのは「実現手段」の1.06ポイントとなっている。

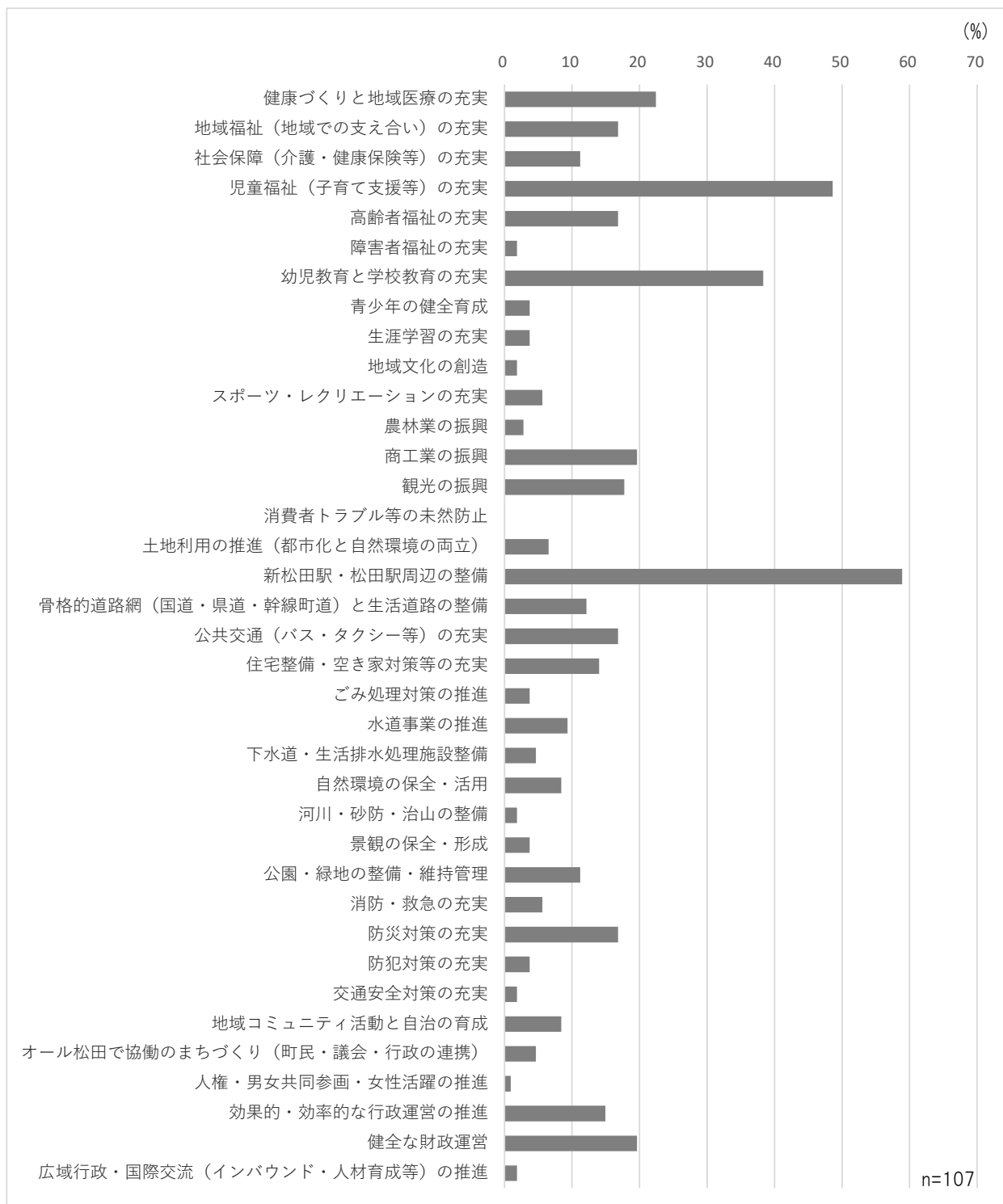
前回調査（平成30年度）と比べると、「経済・産業」が大幅に増加した。一方で、「暮らし・都市基盤」は最も減少している。

町民アンケートの結果と比べると、職員アンケートで最も高い「経済・産業」は、町民アンケートでは最も低いという対照的な結果が出た。

		令和7年度 (職員)	平成30年度 (職員)	前回調査 との比較	令和7年度 (町民)
No.	項目	満足度	満足度	満足度	満足度
分 野	① 健康・福祉	2.17	2.53	-0.37	0.74
	② 教育・文化	1.99	2.34	-0.35	0.94
	③ 経済・産業	2.32	-0.81	3.14	-0.94
	④ 暮らし・都市基盤	1.38	1.80	-0.42	-0.67
	⑤ 自然・環境	1.72	1.55	0.16	1.60
	⑥ 実現手段	1.06	0.86	0.20	0.01

## (2) 今後優先的に取り組むべき課題

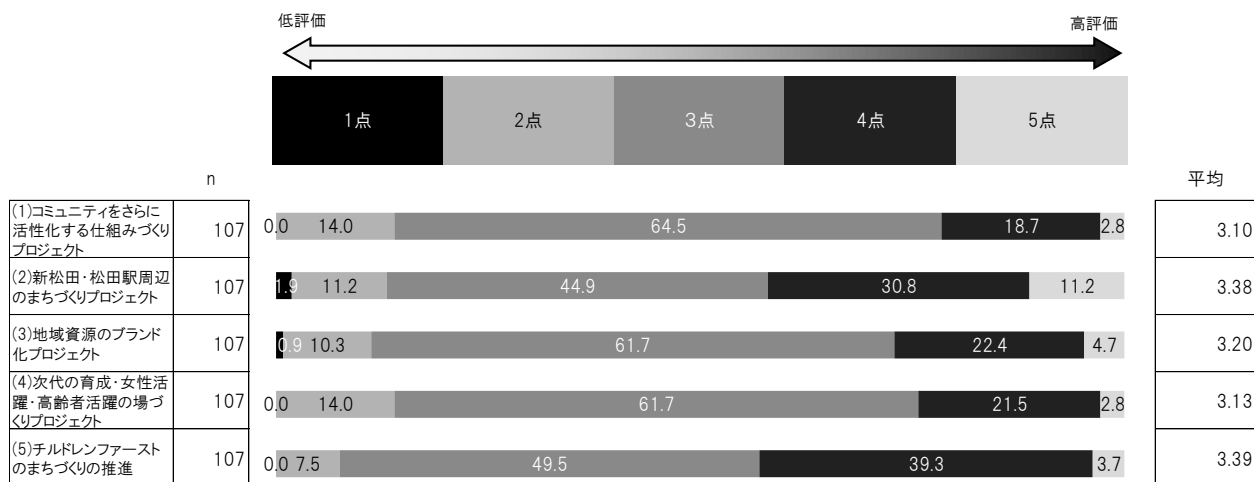
「新松田駅・松田駅周辺の整備」(58.9%)が最も多く、次いで「児童福祉(子育て支援等)の充実」(48.6%)、「幼児教育と学校教育の充実」(38.3%)となっている。一方で、最も回答者が少ないのは、「消費者トラブル等の未然防止」(0%)となっている。



### (3) まちづくり戦略プロジェクト

最も平均点が高いのは、「チルドレンファーストのまちづくりの推進」で3.39点、次いで「新松田・松田駅周辺のまちづくりプロジェクト」で3.38点となっている。一方で、最も平均点が低いのは「コミュニティをさらに活性化する仕組みづくりプロジェクト」で3.10点となっている。

町民アンケートと比較すると、全ての項目において平均点が高く、特に「新松田・松田駅周辺のまちづくりプロジェクト」は町民アンケートでは最も低いが、職員アンケートでは2番目に高い。「チルドレンファーストのまちづくりの推進」は町民アンケートと職員アンケート共に最も高いことから、どちらの視点からも評価されていることがわかる。



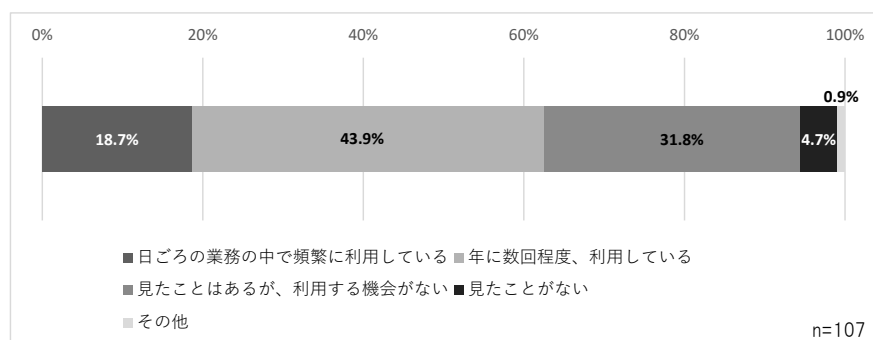
## ■特徴2 松田町第6次総合計画の利用状況

### (1) 「松田町第6次総合計画 新まちづくりアクションプログラム」の利用状況

「年に数回利用している」(43.9%)が最も多く、次いで「見たことはあるが、利用する機会がない」(31.8%)となっている。

「日ごろの業務の中で頻繁に利用している」、「年に数回程度利用している」を合わせた「利用層」は62.6%、「見たことはあるが、利用する機会がない」と「見たことがない」を合わせた「未利用層」は36.5%となっている。

具体的な使用方法としては、事業の整合性・方向性の確認、進捗管理等に使用するという意見が多く見られたほか、外部向け資料に活用しているという声や、活用方法がわからないという声もあった。



〈主な意見一覧〉

全体の確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合計画の内容を改めて確認するため、全体的な箇所について利用している。</li> <li>・自分の考えている取り組みがズレていないか時々確認している。</li> <li>・計画策定担当のためすべて。</li> <li>・係長職にあるため、業務上、確認することは多い。</li> </ul>
事業の正当性担保・指針の確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種業務の根拠として確認。</li> <li>・計画間の整合性担保に使うものという印象。</li> <li>・仕事の方向性の指針として将来像・基本計画・まちづくり戦略プロジェクト・目標指標・実行計画を適宜チェックし、齟齬がないように留意している。</li> <li>・事業計画策定の際。</li> <li>・予算要求時の確認。</li> <li>・目標の達成に向け、国や県の動きを把握し、また地域の経済活動などから課の方針を立案するために使用している。</li> <li>・町の指針等の確認。</li> <li>・町の最高理念であるため、事業執行に係る方向性や位置づけに関する確認、事業の必要性のエビデンスのために使用することが多いが、実務上はさらに具体的に関係する上位計画を参照する機会の方が多い。</li> </ul>
進捗管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予算、決算、年間計画、総合計画審議会など、日常生活において数値目標や実行計画などを中心に確認し、町の方向性や進捗状況等のチェックに活用している。</li> <li>・担当事業の進捗状況や評価の確認のために利用している。</li> <li>・主に進捗の確認をするときに利用。まちづくりアクションプログラム。(部門別計画)</li> <li>・年度内に中間評価・期末評価を確認すること及び目標指標を確認すること。</li> <li>・事業実施に伴う目標指標や実績数の確認など。</li> </ul>
資料として	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内部及び外部への説明資料(視察・議会など)の作成などに日常的に引用をしている。町の将来像及びK P I ・具体的実行計画を確認し、利用している。</li> <li>・補助申請時。</li> <li>・SDGsなどは子どもたちとともに勉強している。</li> </ul>
活用なし	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業務への活用方法が分からないため。</li> <li>・目先の業務を処理することに注力しており、町の将来像をイメージして業務を行っていないため。</li> <li>・普段の業務を確実に積み重ねることが計画実現につながると考えているため。</li> <li>・作られ方そのものに問題があるため、実効性に乏しいと感じる。</li> </ul>

(2) 「松田町次期総合計画」の策定にあたって大切だと思うこと

「計画が町民にとってわかりやすく、評価しやすいものであること」(59.8%)が最も多く、次いで「計画から『何のために』『何を行うのか』ということがわかり、職員にとって行動の指針となること」(46.7%)、「計画の実行に対する、人力的な確保がしっかりしていること」(45.8%)となっている。

